



難波西鶴と

海の道

【64】

その思いに添え、互いに2人は、固く契りを結ぶことになる。

さりながら、源五兵衛も高野山へ向かうという国元での約束は守らねばならず、ともかくは高野山まで

道。26歳の源五兵衛が愛するるのは、中村八十郎。「まそこに済まし、帰路、再び、

森田 雅也

前回は琉球の話でした。

本来は、もっと慮げられた

琉球の歴史や、廃藩置県以

降の沖縄県などについても

書くべきでしょうが、江戸

時代は鹿児島県とともに薩

摩の国でした。

薩摩を舞台とした西鶴の

作品としては、『好色五人

女』(貞享8(1688)年刊)

「巻五」恋の山源五兵衛

物語」という話がありま

す。源五兵衛は薩摩一の男

に美童にめぐり会ってしま

す。その上「かかる田舎に

は稀なる色このめる男な

り」というプレイボーイで

した。

ところが、その「色この

める男」の恋の道は男色の

との経緯を聞いてからは、

中。この話は二巻三巻に

行

た

る

は

な

り

さ

り

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

薩摩一の男前の恋路いかに

テンポよく展開し、こっけい味を出すことに成功しています。

『好色五人女』は五つの話からなります。そのいずれにも実在のモデルが存在し、ほぼ実名で登場します。

巻一は、姫路のお夏と清十郎の悲恋。駆け落ちに失敗したあげく、清十郎は無実の罪で死罪。残されたお夏は出家して菩提を弔います。巻二は、大坂の構屋とおせん

の恋物語。しかし、最後おせんは誤って長左衛門と姦通し、死罪となりま

す。巻三は、京都のおせん、茂右衛門の姦通話。2人は死罪となります。巻四は有名な八百屋お七の話。火炙りの刑に処せられます。

そして、この巻五の話。悲劇4話の後です。巻五の結末やいかに。次週に続きます。

(関西学院大学文学部文芸学言語学教授)

恋の道は男色の道